

# 「肝臓の病気と治療」について

## 沈黙の臓器

取材／読売新聞中部支社 前編集委員 医療コーディネーター 片岡 太

名古屋記念病院 肝臓内科部長 菅内 文中 先生



ウイルス性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんなどは、身近な病気である。それにもかかわらず、これらの病気の8割前後がC型肝炎やB型肝炎であることなど発症の原因やプロセスなどは意外と知らないことが多い。そこで、この分野の専門医であり、高い臨床実績を誇る名古屋記念病院肝臓内科部の菅内文中部長にウイルス性肝炎や肝臓がんについて詳しく話を聞いた。

**Q.**肝臓は重要な臓器ですが、実際どんな機能がありますか。

**菅内部長**／肝臓の主な機能としては、たんぱく質やビタミンを作る合成機能、アンモニアやアルコールを中和する解毒機能、それに胆汁を消化管に出して消化を助ける排泄機能の3つが主な機能です。このうち、一つでも機能不全になると病気になります。

**Q.**肝臓の中でも身近な病気を教えてください。

**菅内部長**／ウイルス性肝炎、慢性肝炎、

肝硬変、肝臓がんなどです。この中でもウイルス性肝炎は、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんを引き起こす大きな原因になります。

**Q.**そのウイルス性肝炎は、一つのタイプのウイルスしかありませんか。

**菅内部長**／一つだけではなく、いろいろなタイプがあります。

**Q.**わが国ではどんなタイプのウイルス性肝炎が多いですか。

**菅内部長**／例えば、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんなどの原因がなんであるかということ考えた場合、C型肝炎と、B型肝炎が多いですね。特に、肝硬変の8割前後はC型肝炎と、B型肝炎の2つが原因で発症するなど圧倒的に多いです。

**Q.**ウイルス性肝炎の患者数は。

**菅内部長**／C型肝炎が150万人から200万人、B型肝炎が100万人から150万人前後です。

**Q.**この2つの肝炎の感染経路は。

**菅内部長**／両方とも血液を介して感染す

るウイルスです。B型肝炎は、母親から胎児に直接感染する垂直感染と、幼少時の水平感染に大別されます。C型肝炎は、輸血や過去に受けた医療行為による感染、さらに麻薬といった薬物使用などによる感染です。

**Q.**治療法はありますか。

**菅内部長**／C型肝炎は、インターフェロンとリバビリンを投与する併用療法。B型肝炎は、インターフェロン単独か、ウイルスの増殖を阻止する効力のある核酸アナログ製剤を投与する治療法があります。ただ、この核酸アナログ製剤は服用を止めてしまうと再発する可能性があります。このため、どの時点で核酸アナログ製剤を止めるかということが重要になっています。

**Q.**C型肝炎の治療効果は。

**菅内部長**／約5割前後は、完全に治るなど大きな効果を発揮しています。

**Q.**再発もないということですか。

**菅内部長**／99.9%再発はありません。